

リスクマネジメント

基本的な考え方

昭和産業グループでは、「リスクマネジメント基本方針」に基づきリスクマネジメント委員会を設置し、企業経営に

対する重大なリスクへの適切かつ迅速な対応の強化に取り組んでいます。

リスクマネジメント推進体制

当社グループでは、コーポレート部門統轄を委員長とするリスクマネジメント委員会にて年1回、経営目標の達成を阻害する可能性のあるリスクを洗い出し、それらについて「経営への影響度」と「発生可能性」のマトリックスで構成されるリスク基準により評価を行い、リスクの重要度を決定するリスクアセスメントを行っています。

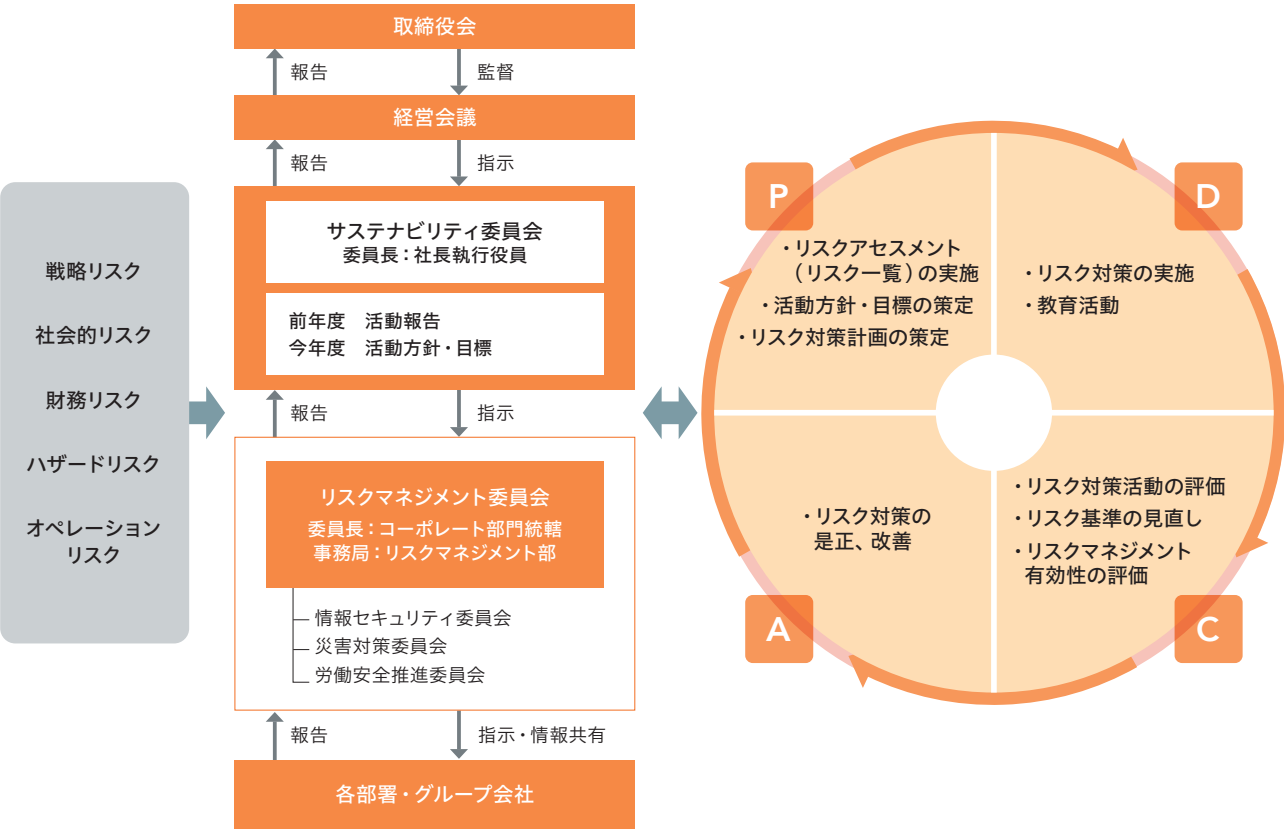
特に、重要度の高いリスクについては、各部門統轄からリスクマネジメント委員会にて対応方針を報告し、委員会において対応状況をモニタリングして改善・指導を行うことで、リスク低減に向けた継続的なリスクマネジメント活動を展開しています。

事業継続計画（BCP）

当社では、事業に大きな影響を及ぼす様な大規模自然災害やパンデミックといった有事の際にも、人命の安全確保を最優先とした上で、事業を継続あるいは早期復旧させることを目的に、BCP（事業継続計画）を策定しています。

また、BCPを有効に機能させ、実効性を高めるため、平時の取り組みとして定期的に各種マニュアル類の整備・改編、訓練などを実施しています。

リスクマネジメント推進体制図



重大リスクの特定

経営に重大な影響を及ぼす可能性のあるリスクは以下の通りです。

リスク項目	関連する主なリスク
1. 原料穀物調達（穀物相場・為替の変動等）	・穀物相場や為替相場の急激な変動 ・持続可能な原料穀物の調達
2. 製品安全	・製品の安全・安心への懸念 ・製品不良による製品回収のコストアップ ・信用低下に伴う顧客離れ
3. 災害・事故・感染症	・従業員の出勤不能 ・サプライチェーンの断絶 ・工場操業停止
4. 情報セキュリティ	・サイバー攻撃でのシステム停止 ・情報漏洩による損害賠償
5. 気候変動	・低炭素社会への移行リスク ・異常気象の激甚化や平均気温上昇等の物理的リスク
6. 人権	・競争力および企業価値の低下（従業員の生産性低下、優秀な人財の流出、企業イメージ、信頼の毀損等）

リスク項目	関連する主なリスク
7. 企業買収及び合併事業	・のれん等の減損リスク
8. 人財確保	・労働力人口減少、雇用情勢の変動等に伴う深刻な人財不足の懸念
9. 少子高齢化・人口減少	・基盤事業における国内市場の縮小に伴う成長の機会の喪失の懸念
10. コンプライアンス	・法令による処罰や社会的制裁を受ける可能性 ・ステークホルダーの信頼を損なう懸念
11. 知的財産	・権利化不十分による競争優位性の喪失 ・権利侵害による当社ブランドの信頼が失墜する懸念
12. 物流に関するリスク	・ドライバー不足による物流停滞の懸念 ・物流費等の上昇による経営成績及び財政状況への影響

各リスクに対する主な取り組みはWebサイトをご覧ください。
<https://www.showa-sangyo.co.jp/corporate/sustainability/governance/risk/management/>

企業価値の維持・向上につながる リスクマネジメントへ

社外取締役（監査等委員）
手島 俊裕

「東日本大震災をはじめとする大規模自然災害」「3年に及ぶコロナ禍」「ウクライナ戦争の長期化など地政学リスク」。それらに伴う工場設備や従業員安全へのリスク、消費者の生活様式変化のリスク、原料穀物相場や為替変動リスクなど、当社はこの10数年に限っても「顕在化した様々なリスク」に適切かつ迅速に対応してきました。この事実が当社のリスクマネジメント推進体制の有効性を端的に示しています。

当社では、経営のリーダーシップのもと従業員全員が目標を共有してリスクマネジメントに取り組んでおり、「リスクの特定」「分析」「評価」「対処」というPDCAが効果的に回っていると評価しています。

一方、時代の変化に伴い、近年は情報セキュリティリスク、人権リスク、気候変動リスクなど、対処すべきリスクも多様化、高度化しています。当社では、こうした新しいリスクや重要性の変化を分析、評価し、モニタリングと改善対応を行っています。より一層迅速に対応していくことが求められます。

なお、リスクマネジメントでは、主として回避すべきまたは影響を低減すべきリスクを扱っていますが、戦略リスクや財務リスクの中には「意図して取るべきリスク」もあると思います。リスク回避と低減によりしっかりと企業価値の維持を図りつつ、適切なリスクテイクによってさらなる企業価値向上につなげていくことを期待しています。